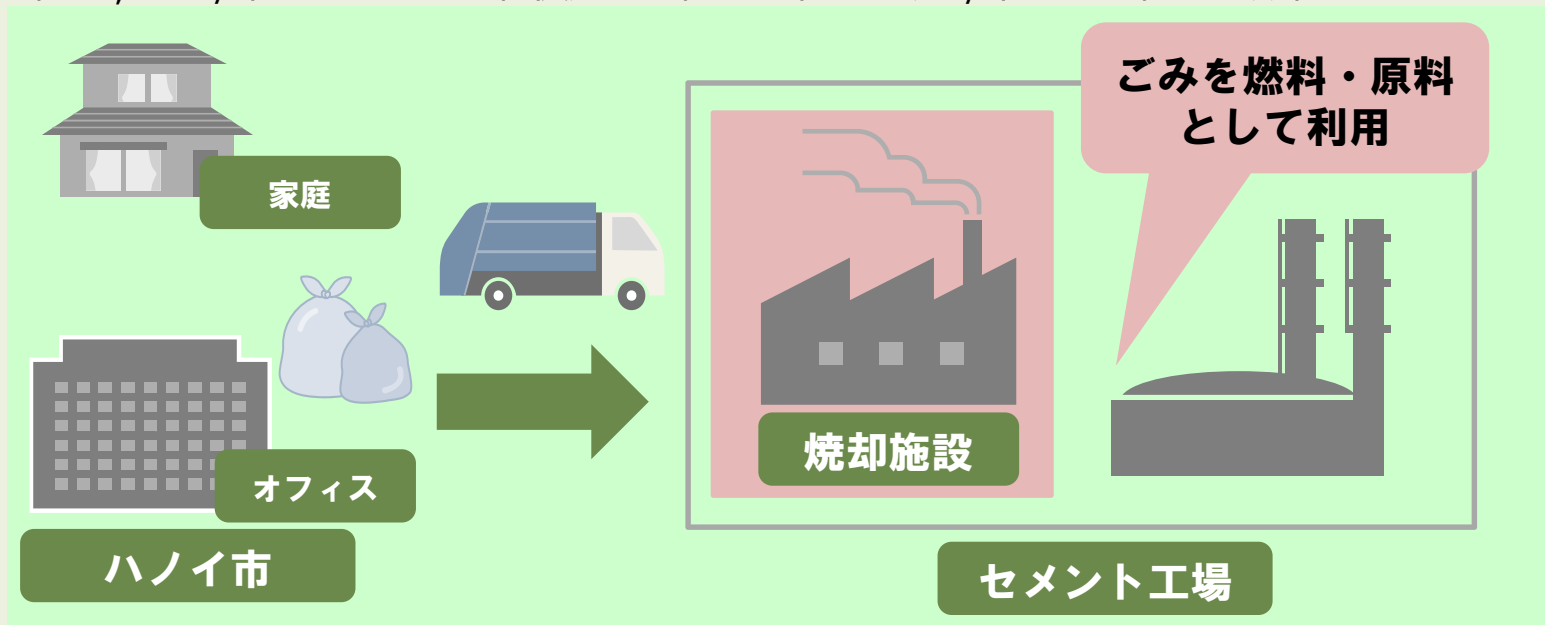


# 採択事業の紹介

## ベトナム国ハノイ市におけるセメントキルンを利用した都市廃棄物処理事業 川崎重工業株式会社（平成24年度）

### <目指している事業>

- セメント工場にごみ処理システムを併設し、当該システムで都市廃棄物をガス化し、セメント工場の原料・燃料として利用する事業。FS段階では600t/d（300t/d×2基）の事業を想定。
- 川崎重工は焼却施設の設計、建設を実施し、またセメント会社による施設運用面で技術的なサポートを行っていく。
- 上記モデルにより、約198,000t/年の最終処分量の削減、約21,600t/年の石炭使用量の削減、約19,800t/年のセメント原料使用量の削減、約34.8万t/年のGHG削減を期待できる。



# 採択事業の紹介

## <実現可能性調査での成果>

### ハノイ市の都市ごみの排出状況・処理実態の把握

- ハノイ市の都市ごみ発生量（年間約140万t）のうち、9割程度がハノイ市の北部にある埋立処分場に運び込まれ、1割程度がコンポスト施設で処理されていることが明らかとなった。
- 廃棄物処理行政の課題は、埋立処分場がひっ迫してきていること、都市ごみ由来の温室効果ガスが発生していることであることを把握した。
- 本事業は、焼却処分による埋立処分量の削減を実現するとともに、廃棄物のセメント原料・燃料利用も可能とするものであり、ハノイ市が抱える課題に対応する事業であることを確認した。

### 事業実現性の検討

- ハノイ市の廃棄物分析を実施し、ガス化処理が可能であることを確認した。
- セメント工場の運転データを分析し、廃棄物処理可能量を確認した。
- ベトナム国内での建設費用等を把握し、焼却施設建設費を算定した。
- 現地の現状のチップングフィーのみでの投資回収は厳しいことが明らかとなり、チップングフィーの価格交渉や、建設費の補助獲得等が課題として残った。

## <実現可能性調査後の状況>

- 事業の技術面での実現可能性は確認できたため、ベトナム関係機関と費用面での交渉を開始したが、日本政府による支援が必要であることが明らかとなったため、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援事業に応募し、採択されている。
- ベトナム政府とNEDOのMOU締結、その枠組み下での実証事業を目指していく予定である。